

「シロバナタンポポ」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

今の時期、私の勤務する大学構内は、春の野草で一杯になる。特にタンポポは日当たりの良い空き地に、まるで栽培でもしたように繁茂している。



以前はセイヨウタンポポが圧倒的に多かったのだが、現在は半々か、カントウタンポポのほうが若干多くなったように思う。それぞれは邪魔し合うこともなく、至近距離で混在しているのが不思議だ。



それらに混じって、ところどころに「シロバナタンポポ」も見られる。シロバナタンポポはカンサイタンポポとケイリンシロタンポポが交雑してできたものだが、品種でも亜種でもなく、現在は一つの主として独立している。



シロバナタンポポは、西日本ほど広く分布し、関西では普通に見られるが、関東ではやや珍しい。



先日、3年生を大学構内で遊ばせた時も、さっそくこのタンポポに気づいた子どもがたくさんいた。タンポポといえば黄色・・・と信じている東京の子どもには、白いタンポポは特別な存在なのだろう。



中にはシロバナばかり見つけて、手あたり次第摘み取ってしまう子どももいて、すっかりなくなってしまった。ちょっと反省したが、根がしっかりしているので、しばらく咲き続けて、綿毛を飛ばすだろう。